

美しい山形・最上川フォーラム

第25回清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会

日時 平成22年3月11日（木） 13:00～14:30

場所 山形県産業創造支援センター「多目的ホール」

意見概要

次第3 協議

(2) 平成22年度部会事業計画案（資料2）

1、清流・環境対策部会

(1) 身近な川や水辺の健康診断 了

- 意見① 事業自体全般的にマンネリ感があり、状況的になかだるみ状態といえる。打開策として、対象を小中高校生にもっと呼びかけたらどうか。フォーラムの部会長や関係団体の指導的立場の方々、地域部会や地域の活動家の方々に、各学校のオルガナイザーとなっていていただき活動してはどうか。
- 意見② 当初の狙いも小中学生に広く呼びかけることとしており、今後各学校への働きかけ方法として、効果的な策の検討が必要だ。

(2) 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン 了

- 意見① 過去、地域における最大規模と思われるキャンペーン活動地区は、大石田地区である。他地域でも、数人での活動ではなく、大きな活動団体化をさせていくために、その活動ノウハウを勉強する必要があるのではないか。

(3) ゴミ発生源対策「捨てない・すてさせない in 最上川」 了

- 意見① 上郷ダムに村山地域の団体が集まり、出来るだけ多くの方々に、現場を見学していただき、講演会等を行い、生きた意見交換の場をもうけてはどうか。数人で活動するのではなく、大々的に、また、象徴的にしていく必要がある。

(4) もがみがわ水環境発表会 了

(5) 美しい水辺づくり功労賞 了

2、最上川文化・地域経済活性化部会

(1) 最上川夢の桜街道づくり 了

(2) 夢の桜街道～さくら物語～ 了

(3) 最上川舟運シンポジウム 了

(4) 写真コンテスト 了

■意見① 他団体で開催されている多くの写真コンテストとの、差別化をはかることが必要。風景遺産的な内容だけではなく、今年度のテーマとして、支流を含めた最上川に係る人々の顔（表情）を中心に、動きのある写真コンテストにしてはどうか。

(事務局長回答) 各応募者が、肖像権をクリアしたうえで応募する形で、検討する。

■意見② 応募点数を1人1点と募集要項に提示しているが、複数応募者がいた。

■意見③ 他写真コンテストや、写真展にて、本コンテストに応募した写真と酷似したもの、あるいは同じ作品をみかけた。今後そのようなことが無い様に対処してほしい。

■意見④ 審査時、他のコンテストにも同作品を応募している人々がいることがわかった。チェックは難しいが、今後ないように進めていきたい。

3、地域部会

地域事業 了

4、その他

(1) 最上川を活用した観光振興及び環境教育 了

(2) 海岸漂着物処理推進法に定める協議会への参加 了

(3) 「花回廊 ようざんろ一ど」をつくる会 第10回植樹祭への参加 了

(4) 「美しい多摩川フォーラム」との連携事業 了

(5) 各種助成金・基金への応募や、その活用を行う 了

(6) 新たな公 了

(7) その他 了

(事務局意見)

県のご支援などもあり、事務局体制が2名となったことから、22年度は今までのスタンス、すなわちフォーラム活動の「維持継続」から、「一步踏み出す活動」に少しずつ移行していきたい。

清流・環境対策部会では、①水質検査⇒②クリーンアップ⇒「③発生源対策、そして小さな親切運動との連携、海の漂着物対策との連携、さらには上郷ダムから引き上げられる流木のエネルギー化などの活動」へとステップアップさせていきたい。

また最上川文化・地域経済活性化部会では、①桜の植樹や手入れなどにより、地域の人たちが集まり、また他地域との交流などによる地域の活性化⇒「②会員、会員企業相互の技術・販売ネットワーク活用による環境関連産業等創出の検討会や協議会」など、部会の本来の目的であった地域経済活性化を目指し、自主的活動として実施していただければと考えている。事務局も、そのコーディネートの役割を担っていきたいので、ご相談いただきたい。会員交流による地域経済活性化は、フォーラム設立当初から意見が

出されていたもの。

(3) その他(資料3)

「夢の桜街道キャンペーン」実施案 了

次第4 その他

意見交換

○最上川検定について

(酒田河川国道事務所副所長)

最上川検定について、フォーラムでは今後どのように考えているか。次回の開催時期や、問題の内容について提案・意見をいただきたい。

(横尾氏)

検定の原点は何なのか、受検後の活用方法などアフターフォローが必要。

(事務局)

会場受検とは別に、「ネット受検」などを盛り込んだらどうか。また、継続に関しては問題内容も限られてきているので、どのような問題にするかも検討事項になる。

(齋藤氏)

ジュニアマスターの合格者が少なかったが。

(事務局)

会場受検のみの発表になっている。分会場受検もあるので、そちらも併せて今後発表していく。

(齋藤氏)

大人の知識を深めるのも大事だが、子どもに最上川のよさを感じてもらい、また受検に合格することで達成感も感じてもらいたい。学校にも呼びかけたらどうか。

(事務局)

今回も多く的小学校に呼びかけたが、次回もそのようにしていきたい。

また、問題を公募したらどうか。

○会員増強について

(横尾氏)

20・21年度も会員増強をかかげて取り組んできたが、効果はみられていない。会員の顕著な減少についてどのようにストップをかけるか。具体策はあるかどうか？みんなで考えていかなければならない。

(事務局)

会員減少については危機感をもっている。会員1人が1人を呼び込むような「運動」が必要である。

(菅原部会長)

フォーラムメンバーには銀行員様が多いが、これは「夢の桜街道キャンペーン」の地域活性化に共鳴していただいたためである。会員であることのインセンティブや、県民が食

いついてくるような事業などを提供していく必要がある。

(横尾氏)

温暖化防止活動推進員として子どもたちに説明する際には、最上川フォーラムのことも常にあわせて伝えている。みなさんもぜひ公の場などでのPRをして欲しい。

(事務局)

新たな公のように、官だけでも民だけでもできないことをする共同体・組織体になり得る。それを意識付けしていきたい。